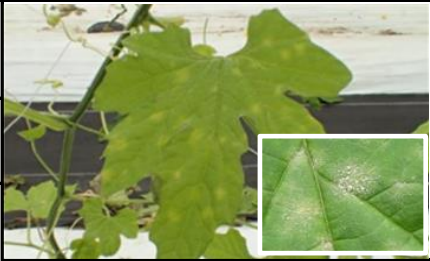
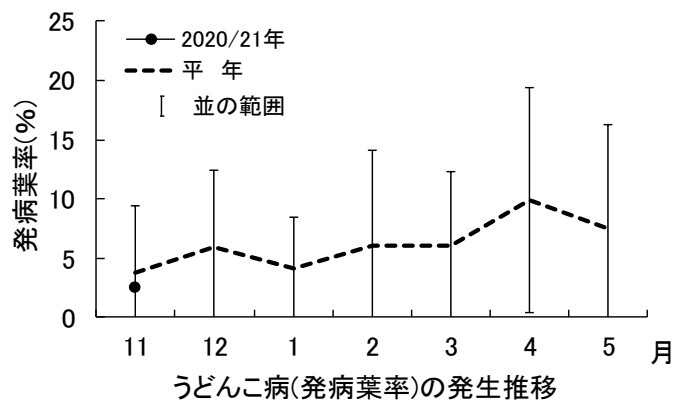


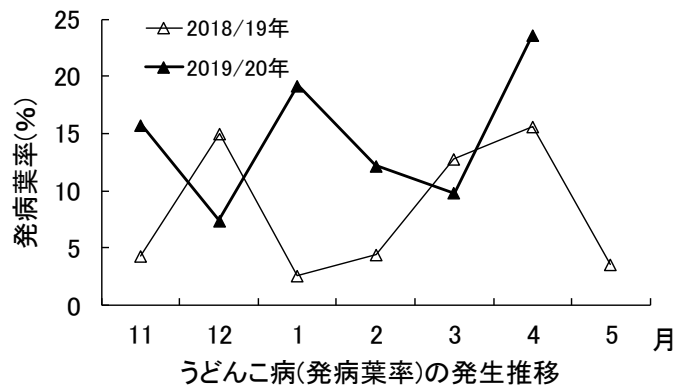
| | | | |
|-------|----------------|---------------|---|
| 作物 | ゴーヤー(施設) | 地域 | 宮古群島 |
| 病害虫名 | ① うどんこ病 | |  |
| 調査結果 | 11 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報 | 11 月からの増減傾向 | ↗ | |
| | 12 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↗) | |

調査結果

今年と平年の推移




過去 2 年の推移



・発生ほ場率：20% (平年値：31.1%)

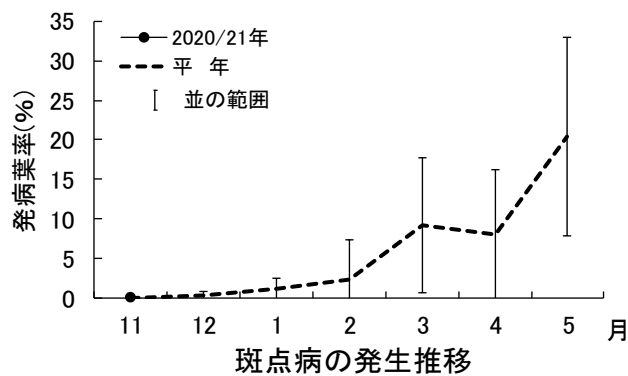
防除のポイント

- ・老葉や病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

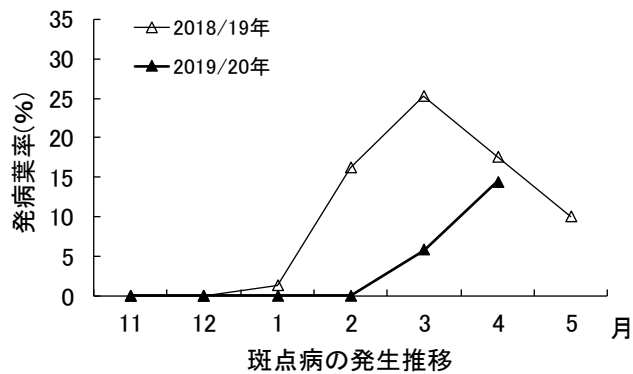
| | | | | | |
|-------|----------------|----------------|---|------|--|
| 作物 | ゴーヤー(施設) | | 地域 | 宮古群島 | |
| 病害虫名 | ② 斑点病 | |  | | |
| 調査結果 | 11 月の発生量 (平年比) | (発生なし)並 | | | |
| 予報 | 11 月からの増減傾向 | ↗ | | | |
| | | 12 月の発生量 (平年比) | 並 | | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↗) | | | |

調査結果

今年と平年の推移




過去 2 年の推移



・発生ほ場率：0.0% (平年値：0.0%)

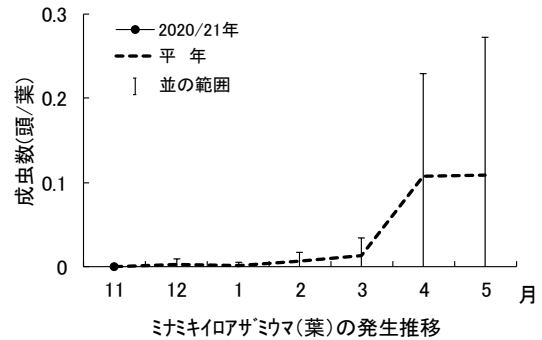
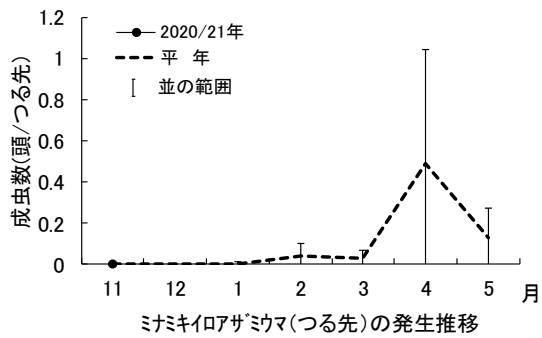
防除のポイント

- ・葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・老葉や病葉は発生源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。またビニールの破れは補修する。

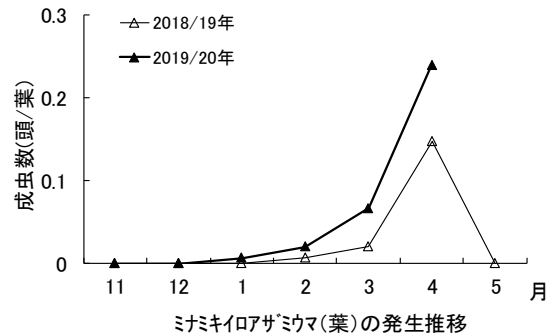
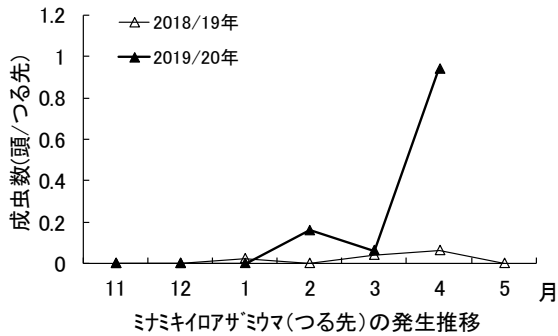
| | | | |
|-------|----------------|----------------|---|
| 作物 | ゴーヤー(施設) | 地域 | 宮古群島 |
| 病害虫名 | ③ ミナミキイロアザミウマ | |  |
| 調査結果 | 11 月の発生量 (平年比) | (発生なし)並 | |
| 予報 | 11 月からの増減傾向 | → | |
| | | 12 月の発生量 (平年比) | 並 |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (→) | |

調査結果

今年と平年の推移



過去 2 年の推移




・発生ほ場率：0.0% (平年値：0.0%)

防除のポイント

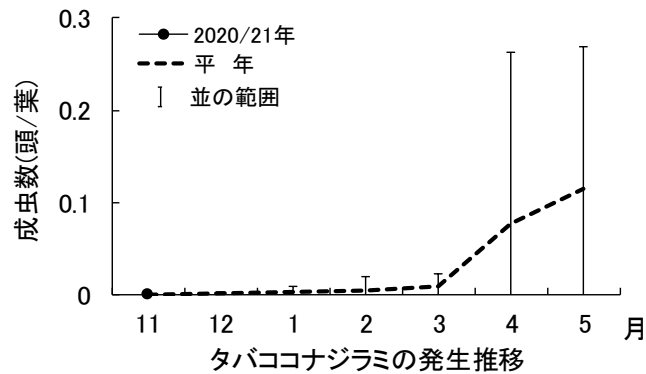
- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、灰白色斑紋病を媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



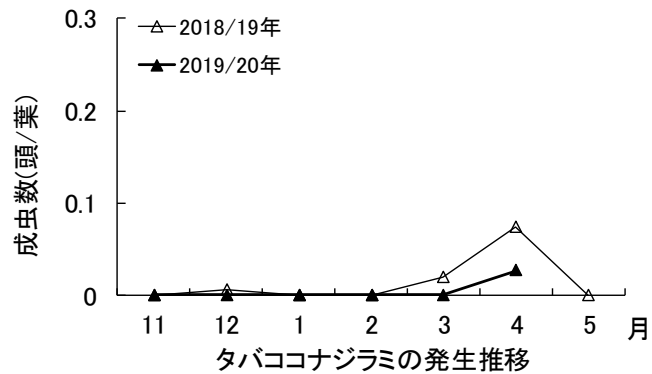
| | | | |
|-------|----------------|---------------|---|
| 作物 | ゴーヤー(施設) | 地域 | 宮古群島 |
| 病害虫名 | ④ タバココナジラミ | |  |
| 調査結果 | 11 月の発生量 (平年比) | (発生なし)並 | |
| 予報 | 11 月からの増減傾向 | → | |
| | 12 月の発生量 (平年比) | 並 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (→) | |

調査結果

今年と平年の推移



過去 2 年の推移



・発生ほ場率：0.0% (平年値：0.0%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設開口部には目合い0.6ミリ以下の防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。